

対馬暖流は沿岸と沖合を北上 対馬暖流の流量は平年並 今後の沿岸水温は平年よりも高めで推移

2022年2月17日～20日にかけて実施した日本海定期観測の結果をお知らせします。
対馬暖流は、せたなの沖合を通過後、そのまま北へ流れるルートと、積丹半島方向へ流れるルートに分かれて北上しています（図1c）。対馬暖流の北上流量は約1.3Sv（1Sv=10⁶m³/s）で、ほぼ平年並となっています（2月流量の平年値は1.2Sv）。

50m深水温は、せたなから手塩に至る沿岸域では5～7℃とほぼ平年並みですが、積丹半島沖合の対馬暖流が流れる海域では平年よりも1～2℃高くなっています（図1a、b）。一方、宗谷海峡周辺では、50m深水温が3℃以下になっており、オホーツク海から日本海への海水の流入がみられます（図1a、b）。

余市前浜水温は2月下旬では「平年並み」ですが（※1）、2月下旬から3月下旬の気温は平年よりも高い予報となっていますので（※2）、沿岸水温は今後は平年よりも高めで推移することが予想されます。

※1 <https://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/kankyuu/suion/index.html>

※2 気象庁HPより1ヶ月予報：<http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/>



余市前浜水温 気象庁1ヶ月予報

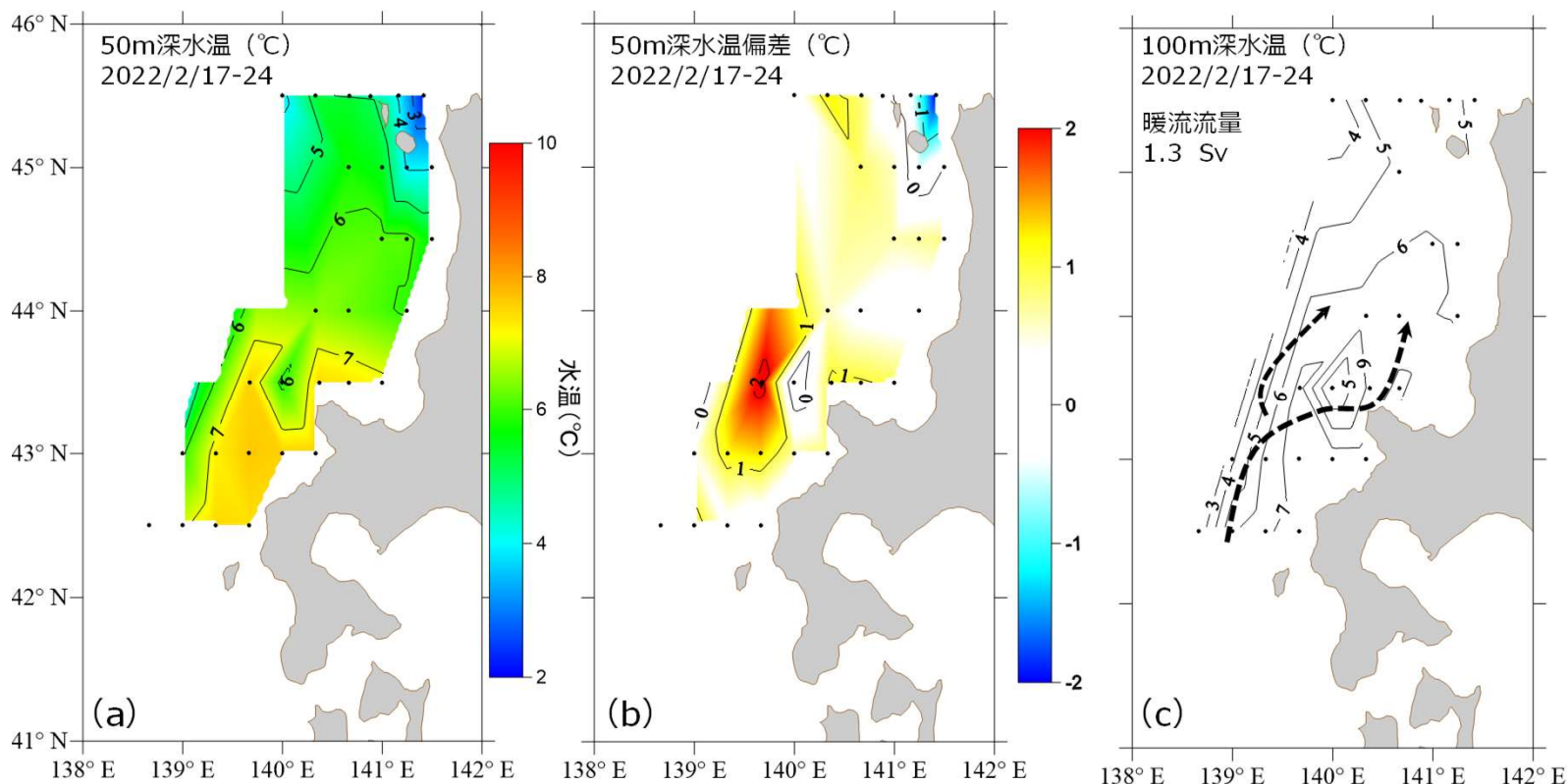


図1 2022年2月中下旬における (a) 50m深水温 (b) 50m深水温偏差の水平分布、(c) 100m深水温の水平分布と対馬暖流の流路（矢印）。水温偏差は過去30年（1989年～2018年）の平均値から算出。流量の単位はSv（=1×10⁶m³/s）。